

鬼才が放つ思考の技術集。

本書は、

あらゆる無理難題を解決し、

広告業界の新しい地平を切り拓いて来た岸勇希の

「思考の試行錯誤」の記録です。

プレゼン 8 年間無敗の極意がここにある。

企画と己を高めるための「68」のメッセージ

- ・「若い」と「幼い」は違う。
- ・出来ないことは、出来ることを組み合わせて挑めばいい。
- ・自分のペースでやれることなんてないから、ペースがないのをマイペースにする。
- ・普通のことを普通に、そして年に1度か2度、企んでみる。
- ・追い込まれて、折られまくって、「ああ、もうどうでもいい」となったときこそ、一番大事なときだから踏ん張る。
- ・進化は危機からやってくる。
- ・成長したいのなら出来たことよりも、出来なかったことに目を向ける。
- ・影響を受けるのと同じくらい、影響を受けないことも重要。
- ・悩むことは普通。むしろ悩み続けるべきだ。
- ・謙虚であれ、されど萎縮することなかれ。
- ・考えるのは、呼吸と一緒に。
- ・自分のアイデアは、いじめ抜くことで研ぐ。
- ・全ての不正解から、正解はあぶり出せる。
- ・いちいち怒れ、そしていちいち不安になれ！怒りが思考量を増幅させ、不安が思考に深さを生む。

- ・ 素朴な疑問は、口に出す。
- ・ 「思考力」より「思考量」。その案件について地球上で一番考えている人間であれ。
 - ・ 寂しいなと思う孤独な時間は、考えるのに大切な時間。
- ・ 企画とは、自信過剰な自分と不安な自分の間に、傲慢な自分と謙虚な自分の間に研がれる。
 - ・ ルールや定義などない“伝えたい”という想いが企画書になる。
 - ・ プレゼンテーションは説明ではなく、物語である。
 - ・ シンプルな言葉に書き表せない企画は、基本的に伝わらないものだ。
 - ・ 万人に愛されることを目指すな。
 - ・ 壁は「高い」とわかれば越えられる。
 - ・ 言葉にする。書く。絶対に、書く。
 - ・ 原因はひとつではなく、もっと複雑だという真理。
 - ・ 常に目標を疑って、疑って、目標を鍛える。
 - ・ 企業の課題は「とはいえ」に潜む。
 - ・ 問題の9割は「手段と目的の逆転」が根本にある。
 - ・ 無理難題でもどこかに一筋の光が必ず射す。
 - ・ 勝たなければ、地獄さえ歩ませてもらえない。
 - ・ やる以上徹底的にやれ。敵の頭と胴体が離れるのを見届けるまで、手は止めるな。
 - ・ 転ばぬ先の、360度杖。
 - ・ プロジェクトが上手くいかなかったとき、徹底した「愚か分析」で、誰が愚かだったか犯人捜しをする。
 - ・ 相手の「単位」に変換する。
 - ・ 教えることは教わること。だから全力でやる。
 - ・ 緊張させる。されど萎縮させるな。
 - ・ いいチームがいいものづくりをしているときにだけ流れる覇気がある。
 - ・ 残念ですが、頑張ったとか、どうでもいい。

- ・衰退とは後退ではなく、挑戦しないこと。それはゆるやかな死。
- ・焦るな。沈むときを耐えて、次の次に備えよう。遠回りをしよう。
- ・道筋なんて知らなくても、歩み方なんて知らなくても、強烈にゴールを見据えれば、きっと辿り着ける。ただし、強烈に。強烈に。強烈に。
- ・必要なのは、折れない情熱ではなく、折れても蘇る情熱。
- ・最終的には「勝つまでやる」。

ほか

<http://yep.pm/HfmbPY6d5/uC7hLBtnB.pdf.rar>